

山域 劔岳(早月尾根)  
日程 2024年12月28日 - 2025年1月1日  
メンバー 深見(L) 森田 中嶋(SL) 松吉 星島 薬師寺(記録)  
コースタイム

2024年12月29日(日)

08:40: 伊折  
12:00: 馬場島荘  
15:00: 松尾平・標高1000m(幕営)

2024年12月30日(月)

05:00: 起床  
07:30: 発  
09:00: 標高1200m  
10:00: 標高1400m  
11:00: 標高1600m  
13:40: 1920.9m三角点  
15:40: 丸山  
16:00: 早月小屋(幕営)

2024年12月31日(火)

07:00: 起床  
09:20: 発  
15:10: 松尾平・標高1000m  
16:10: 馬場島荘(山荘泊)

2025年1月1日(水)

10:20: 発  
13:30: 伊折

行けるところまで行こう！

アルデに入会し初めての合宿は、寒波の影響で風雪は避けられなさそうではあったものの、少々の悪天では中止にしない意気込みで富山へ向かった。

12月29日に入山、3泊4日予定で早月尾根から劔岳を目指した。

結果から言えば、撤退。

トレーニングで登った宝剣岳同様、目指している頂上さえ見ることができなかった。

しかし、個人的には好奇心が勝り、終始楽しくて仕方のない山行であった。

そして、下山後もyoutubeで雪山の動画を見漁っている。

## 2024年12月29日(日):雪

4:30 雨・雪

頭が濡れて目が覚める。

前日は16時ごろ大阪を出発し、インター手前の流杉PAで幕営していた。

当初は高速道路をおりての幕営予定であったが、除雪されない可能性を考え予定を変更。

フライをつけず張ったテントは、朝方降り始めた雨で濡れてしまった。

雪ばかり警戒しており、まさか雨が降るとは思っていなかった。

入山前にテント、寝袋、マットなどがびしょ濡れだが、気にしないように、、、と自分に言い聞かせる。

前夜にテントが狭く車に移動してくださった中嶋さんは雨を回避。羨ましく思う。

6:00 急いでパッキングし、伊折へ向かう。

雪は多かったがちょうど除雪後であったため、無事峠を越えることができた。

後ほど聞いた話だが、通行のタイミングが悪かったのか、1パーティーは峠を越えられず途中で引き返したとのことであった。

8:40 曇

伊折で車をおり、ここから馬場島までの8キロは林道が続く。

後ろを振り返ると、来た方向には青空が垣間見えている。前方には色が無い。

途中山岳警備隊の車両とすれ違う。雪が潰された轍はとても快適に歩ける。

進むにつれ風雪が強まる。



※伊折 ※馬場島荘での作戦会議

12:00 馬場島 雪

馬場島で富山県警警備隊に入山の挨拶を済ませ、一旦馬場島荘へ。

他パーティーの入山状況を聞くと、今朝4パーティー入山したとのこと。

そのうち1パーティーは松尾平から引き返してきているとのこと、トレースを期待しながら松尾平を目指す。



※「試練と憧れ」の石碑？

15:00 松尾平・標高1000m(幕营地)雪

テント2張り(6テン、森田さんのテント)を設営。

初めての食担、もつ鍋を作る。

家で下処理してきたシマチョウは臭みがなくとてもいい感じ。

炭水化物はちゃんぽん麺にしたが、個人的にはお米をもってこればよかったと少し後悔。

**2024年12月30日(月):晴**

5:00 起床、7:30 出発 曇



※幕営地(松尾平)

寒いが、清々しい爽やかな天気。

松尾平を超えると、すぐ急登が始まった。

前日の雪がたんまりと積もり、先行パーティーのトレースは消えている。

高揚感がとまらない。。。

見かねた深見さんがラッセルを譲ってくださる。

腰までだったり、胸までだったり雪をかき分けながら進んでいく。

自分たちが通ったところが道になっていく感覚は格別である。

※ラッセルしているときの休憩は、交代するタイミングで先頭の人にとっていくとのことを教えていただく。パーティー全体として歩みを止めずに、効率よくすすめるからとのこと。



※ラッセルする中嶋さん ※先行パーティーのテント

10:00 標高1400m 晴

先行パーティーの幕営地を通過すると、トレースが出てきた、もちろんありがたく使わせていただくが、ラッセルは最後までしていたかった。



この日は天気がとてもよく、早月川が見え、市街地、日本海、その先には能登半島まで見渡せた。

だが、「もしこの日にアタックしたとしても登頂はきびしいかも、、、」と先輩方は言う。

、、、確かに標高が高いところには雲が残っている。素人目にはいけるように見えてしまうから怖い。

15:10 先行パーティーとすれ違う。

時間と天候を加味して、早月小屋までは行かず引き返してきているそうだ。

ラッセルのお礼を言いつつも、内心トレースがなくなることをうれしく思う。

16:00 早月小屋(幕営地)風雪

到着と同時に天候が急変し、風雪の勢いが強くなる。

風をよけられる小屋の傍らを整地する。

テント班が設営をしてくれている間、森田さんに雪洞トイレの作り方を教えていただく。

手間はかかったが、風雪を遮断できるため労力以上の快適性を手に入れられた。

その後、松吉さん作のラーメンを食べながら、明日の予定を確認。

「いけるところまでトレースをつけるか、撤退するか」

この先天候がよくなることは無さそうなため、停滞は選択肢に無いとのことだ。

撤退濃厚ながらも最終判断は朝起きてからすることに。



※早月小屋手前 ※12/31 出発準備

**2024年12月31日(火):風雪**

7:00 起床

夜中は風が強く、小屋の屋根に積もっていた雪が落ちてきた。テント端っこだで寝ていたため、落ちてきた雪にフライが押され寝るスペースが少なくなりました。

外は吹雪いており視界も悪いため、標高はあげず馬場島へ引き返すことに。

9:20 前日置いたギアを雪の中から掘り起こす。

こんな風雪の中行動できるのかと驚きつつも、冷静に深見さんが進むべく道を先導して下さるため、その後ろをついていく。

昨日のトレースは無くなっており、尾根の特徴もわかりづらい。往路で残しておいた赤旗や、残地のテープを参考にルーファイしているとのことだ。

途中、雪を踏み抜き自力で脱出できなくなるということがあったりしたが、16時頃無事に馬場島荘に到着し、そのまま1泊。



※赤旗(往路) ※馬場島荘で年越し

2025年1月1日(水): 晴れ

お雑煮を堪能し、10:30 馬場島荘を出発。

帰りの林道は晴れていたし、明らかに初日より雪の量が減っており、すんなりと伊折に到着。

上市のイオンで買い物し、20時頃帰阪。

## 感想

### 良かった点

- ラッセルを楽しめたこと
- 下山時のルーファイで焦らず進めたこと

### 次回に活かす点

- 晴れた日だと、お湯は750mlだと少なく感じた。(900くらいほしい)
- 行動食のチョイス(ラムネ◎ドライフルーツ◎食パン×3斤持って行って一枚も食べなかった)
- 象足のアウター？購入(星島さんにお借りしたモンベルの象足アウターの使い勝手がよかった。)